

論文の内容の要旨

論文題名

Crohn's disease may promote inflammation in IgA nephropathy: a case-control study of patients undergoing kidney biopsy
(クローン病は IgA 腎症において、その炎症を増悪させる可能性がある)

掲載雑誌名

Virchows Archiv European Journal of Pathology

Vol. 481 No. 4 P. 553-563, 2022 年 掲載

医学研究科生理系解剖学(顕微解剖学分野)専攻博士課程 秋山美奈子

内容要旨

【背景・目的】

近年腸管免疫は Gut-Kidney Axis (「腸腎連関」) として腎疾患の病因や進行との関連が考えられ、特に炎症性腸疾患の腎疾患への関与が指摘されている。本研究ではクローン病 (CD) 合併 IgA 腎症 (IgAN) の腎症病変形成における腸管異常免疫の関与を明らかにすることを目的とする。

【方法】

2009 年～2017 年東京山手メディカルセンターで腎生検で診断した CD 合併 IgAN (CD-IgAN) 18 例と CD 非合併 IgAN (NOS-IgAN) 11 例の臨床病理所見を比較した。IgA サブクラス (IgA1、IgA2)、ガラクトース欠損 IgA1 (GdIgA1)、糸球体・間質のマクロファージ (Mφ) 浸潤等を免疫組織学的に評価した。

【結果】

CD-IgAN は NOS-IgAN に比し糸球体硬化、間質線維化/尿細管萎縮 (IF/TA)、Mφ 浸潤等が有意に高度だが、動脈硬化症、GdIgA1、IgA サブクラス沈着等は CD の有無で差がなかった。臨床的に NOS-IgAN の尿異常は治療で改善したが、CD-IgAN で改善は有意でなかった。

【考察】

CD-IgAN の高度な腎組織障害、臨床的腎機能低下、治療抵抗性の要因は CD 患者の全身病態、5-ASA 等治療薬剤、CD 特有の異常免疫病態等が考えられ、特に免疫学的異常がサイトカインや Mφ 浸潤を介し IgAN の炎症を促進することが示唆された。CD の異常免疫が IgAN の炎症を促進する可能性につき更なる検討が必要である。